

# 愛知県医師連盟ニュース

発行所  
愛知県医師連盟  
〒460-0008  
名古屋市中区栄4の14の28  
愛知県医師会館内  
TEL.052(251)2500

平成24年12月16日執行の第46回衆議院議員総選挙は、愛知県医師連盟組織内候補者の今枝宗一郎氏を始め、医師連盟が推薦した多くの候補者が当選しました。



## ご挨拶

愛知県医師連盟 委員長  
柵木 充明

12月4日公示された衆議院総選挙も、12日間の短期決戦を終えてようやく決着を迎えました。

結果を見れば、民主党政権への不信感の受け皿として自民党が選ばれ、自民294議席、公明31議席と自民党の圧勝となりました。連立与党併せて325の議席は参議院で法案が否決されても、衆議院で再可決できる3分の2を超える数であり、安倍内閣にとって政権運営のための様々な選択肢を提供するものです。だからと言って自民党内閣への復帰は、決して手放して喜ぶことのできる状況ではありません。

いち早く経済財政諮問会議や規制改革会議の立ち上げを宣言し、かつての小泉内閣の轍を踏まないか今後、警戒しながら見ていく必要があります。愛知県では15選挙区の内、13選挙区で自民党が勝ち、残りの2選挙区でも比例復活し、結果的には15の選挙区ですべて自民党が制しました。

今回の選挙はこれからの日本の方向性を決める節目ともなる大事な選挙でありますので、愛知県医師会、医師連盟が選挙に臨んだ対応について、簡単にその要点を述べさせていただきます。

3つの方針の下に臨みました。

第1点は地区の意向を尊重し、地区で推薦された候補者については、基本的にこれを追認して愛知県医師連盟として推薦するという方針といたしました。地区での推薦は複数あるところもありましたが、県医師連盟も殆ど同様に推薦させていただきました。

第2点は推薦候補者と政策協定を結んだことです。

皆さんもうすでにご承知だろと思いますが、

- ・国民皆保険制度を堅持する
- ・混合診療の全面解禁は認めない
- ・保険診療に対する消費税率をゼロ税課税にすること

の3つの政策を了承いただき、地区と愛知県医師連盟の委員長との連名で、候補者に承諾のサインをもらいました。すべての推薦候補者に来館して貰い、私の手から直接推薦状を渡しました。

第3点は自民党から愛知県第14選挙区で出ている今枝宗一郎君を愛知県医師連盟の組織候補と位置づけ、これを全面的に応援することでした。彼については、愛知県医師連盟が、ここ2年半前から彼を国会に送るべく、いろいろサポートして参りました。

日医連の組織候補が過去2回の参議院選挙で、連続して煮え湯を飲まされ、3年毎に組織候補を送り出すという、今までの日医連の方程式が崩れつつあることを実感しました。

それに代わる方法を模索して参りました。その結果、愛知県医師連盟で独自に政治家を創りあげよう、という結論に達しました。この方針が日医連各都道府県に広がれば、2名の参議院議員をつくるよりも、傘下にもっと多くの国会議員を抱えることになる、医師連盟の強化に繋がる、是非この試みを成功させたいと考えました。

まず第一は人材です。

その頃、勤務医対策として若手医師を医師会に鳩合する動きがあり、現在の「ジェネラルマインド医師養成セミナー」が開講され、その運営の中心人物が今枝宗一郎君でした。

事業活動を通じて、人となり、実行力、見識など感心しながら見ていたところ、彼から「自分は政治家になりたい」との意向を聞きました。渡りに船とはこのことでした。

当時、愛知県の衆議院選挙区は、今回の選挙結果とは真逆で、愛知県内15選挙区すべて民主党が占

め、小泉内閣の郵政選挙で落下傘として当選し、次の総選挙で敗れた議員の殆どは戦意喪失して選挙区を離れ、逃げ帰ってしまいました。そのため15選挙区の内、いくつかの選挙区は自民党候補の空白区として残ってしまいました。彼は名古屋市東区の住人だったので「2区はじめとする名古屋市内で出馬したら」との話もありました。民主党の金城湯池ともいべき市内で戦うのは無理だ、保守色の強い地域を考えていたところ、たまたま愛知県第14選挙区一豊川、新城、蒲郡地区の支部長が空いた、との情報が自民党県連からあり、是非この地区へ、と推薦したところ、年末に一般公募、年明けには早々に支部長に決定されました。

その後2年の間、連盟や医師会内に以上の経過を語り、愛医連ニュースにも報告し、多くの会員に支持を呼びかけました。「何故、14区だけを応援するんだ」「まだ若すぎるのではないか」などいろいろご批判や意見も頂戴しました。愛知県第14選挙区の地元でも、支部長の決定があまりにも早かったため、区域の公職者からの反発もあったと聞きました。

彼が支部長になってからの経過は、後に彼の後援会長になる大野先生のレポートに任せたいと思います。とにかく愛知県医師連盟が会員を政治家として誕生させ、育てるという試みを何としても成功させたい、この一心で愛知県医師連盟、愛知県第14選挙区内の医師連盟が一体となった取り組みを始めました。

平成23年4月には彼を愛知県医師連盟の執行委員に任命し、またその年の6月には愛知県医師連盟規約第4条にある「会員の代表を国会に送る」の代表とすることに愛知県医師連盟執行委員会でご承認いただき、彼を愛知県医師連盟の組織代表にお認め頂きました。更に同年8月には彼を応援するための政治団体「医政宗一会」の発会式を愛知県医師会館の医師連盟室で行い、彼をバックアップするための会内手続きはすべて完了しました。後は総選挙を待つばかりです。

愛知県第14選挙区は新城、豊川、蒲郡の3地区に分かれ、面積も広大です。事務所も構え、区域内の様々な会合に顔を出させて貰い、駅前に辻立ちして街頭演説する日々が続きました。

平成24年3月、民主党政権の野田首相が「消費税増税に政治生命をかける」と明言してからはいつ解散総選挙になってもおかしくない政局となりました。全く無冠の彼の政治活動を支えるためにはそれなりの資金がいります。更には地元市議会議員、県議会議員の協力も不可欠です。

また、第14選挙区の医師会はもとより歯科医師会、薬剤師会、看護連盟、柔道整復師会、鍼灸マッサージ師会などの医療団体の協力もとりつけました。

これらの課題をひとつひとつこなし、いつ選挙があるか野田政権の動向に目が離せない日々が続きました。

平成24年11月16日は待ちに待った解散の日でした。私自身は事務所開き、出発式、決起集会とすべての節目の会に出席し、応援弁士を努めました。12日間の選挙期間中、7回選挙区に入りました。

解散までは彼の当選を確信することは出来ませんでした。選挙期間中徐々に手応えを感じ、終盤戦には各メディアの表裏情報から、勝利を確信するに至りました。

投票日には彼の隣に立って、バンザイをするところを、メディアを通じて今までお世話になった会員の方々に見て貰いたい、その一心でインタビュー台も自ら指揮して設えました。当確の報が出た時には、思わず嬉し涙が出ました。

今回の選挙、物心両面にわたって今枝君を支えて頂いた会員の皆様、本当にありがとうございました。

また、特に第14選挙区の先生方には演説会への動員、集票活動、奥様方を動員しての電話作戦、様々なお願いに応じていただき、この場を借りて心より御礼申し上げる次第です。

皆様方のご協力の下、ジバン、カンバン、カバンなど全くない一人の若い医師を愛知県医師連盟の力で国会に送り込むことが出来ました。

こうした試みが全国の都道府県連に波及し、これからの医政連盟の政治力が強くなることを切に望むものであります。

### 愛知県医師連盟組織候補者 今枝宗一郎氏の当選

愛知県医師連盟の組織候補である今枝宗一郎執行委員については、愛知県第14選挙区から立候補し、皆様のお力添えもあり、現職で4期目を目指していた未来の党の候補者を破り見事当選することが出来ました。

会員の皆様に対しましては、物心両面にわたりご支援賜ったことをこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げますと共に、今枝先生に対しましては国政において益々活躍されることをご祈念申し上げます。



当選を喜ぶ大野常任執行委員（左は当選した今枝先生）



当選確実の報道を受け万歳をする今枝候補ら  
中央は柵木委員長、右から2人目は大野常任執行委員



当選の祝福とお礼の挨拶をする柵木委員長

## 愛知県医師連盟の推薦候補者名

愛知県医師連盟は、昨年11月29日午後2時から愛知県医師会館8階会議室において、愛知県医師連盟執行委員会を行い、委員長から執行委員の先生方に対し、第46回衆議院議員総選挙の候補者推薦のあり方について説明があり、愛知県医師連盟の活動指針に署名・捺印し、提出することを条件に、地区医師連盟の推薦候補者に対し県医師連盟も追認することで承認を頂きました。

今回、愛知県医師連盟が推薦した候補者は、選挙区順に

- 第1選挙区 熊田裕通(自)、吉田統彦(民)
- 第2選挙区 東郷哲也(自)、古川元久(民)
- 第3選挙区 池田佳隆(自)、近藤昭一(民)、磯浦東(未来)
- 第4選挙区 工藤彰三(自)、牧 義夫(未来)
- 第5選挙区 赤松広隆(民)、小山憲一(維新)
- 第6選挙区 丹羽秀樹(自)、天野正基(民)
- 第7選挙区 鈴木淳司(自)、山尾志桜里(民)
- 第8選挙区 伊藤忠彦(自)、伴野 豊(民)
- 第9選挙区 長坂康正(自)、岡本充功(民)
- 第10選挙区 江崎鐵磨(自)
- 第11選挙区 八木哲也(自)
- 第12選挙区 青山周平(自)
- 第13選挙区 大見 正(自)、大西健介(民)
- 第14選挙区 今枝宗一郎(自)
- 第15選挙区 根本幸典(自)

の皆様でした。

政党別では、自民党公認候補者14名、民主党公認候補者9名、未来の党公認候補者2名、日本維新の会公認候補者1名の計26名でした。

この候補者に対しましては、委員長より愛知県医師会館において激励すると共に推薦書が手渡されました。

## 推薦立候補者の当落及び得票数

委員長の挨拶にもあるように、愛知県医師連盟が推薦した候補者の内、自民党候補者14名全員(小選挙区12、比例2)と、民主党候補者4名(小選挙区1名、比例3名)の18名が当選されました。当落及び得票数につきましては、次の表の通りとなりました。

推薦候補者の当落及び得票数

選挙区	自民党	民主党	その他
1区	◎ 熊田 裕通 77,215	● 吉田 統彦 36,578	
2区	○ 東郷 哲也 67,086	◎ 古川 元久 94,058	
3区	◎ 池田 佳隆 77,700	○ 近藤 昭一 73,927	● 磯浦東(みんな) 39,861
4区	◎ 工藤 彰三 63,932		● 牧 義夫(未来) 41,730
5区		○ 赤松 広隆 65,423	● 小山憲一(維新) 37,806
6区	◎ 丹羽 秀樹 113,991	● 天野 正基 56,644	
7区	◎ 鈴木 淳司 110,390	● 山尾志桜里 92,398	
8区	◎ 伊藤 忠彦 115,407	● 伴野 豊 81,078	
9区	◎ 長坂 康正 93,757	● 岡本 充功 62,033	
10区	◎ 江崎 鐵磨 96,548		
11区	○ 八木 哲也 91,164		
12区	◎ 青山 周平 91,816		
13区	◎ 大見 正 98,670	○ 大西 健介 97,187	
14区	◎ 今枝宗一郎 71,881		
15区	◎ 根本 幸典 73,521		

凡例 ◎は小選挙区で当選 ○は比例復活当選 ●は落選

選挙結果は、上記の通り小選挙区で13名、比例復活で5名の計18名が当選されました。

## 全国的の医療関係候補者の選挙結果

今回の選挙は、自民党が単独で半数を超える294議席(小選挙区237、比例代表57)を獲得して圧勝。その一方で民主党は選挙前の議席230から57と大きく減らしました。

この選挙結果を医療関係者別にみたところ、当時与党であった民主党から小選挙区で22名が立候補したものの、長妻昭元厚労相ら小選挙区で3名、比例復活で1名の4名の当選者にとどまり、厚生労働省の三井辨雄厚労大臣、西村智奈美厚労副大臣、糸川正晃厚労政務官の現職政務三役、また厚労大臣を歴任した細川律夫氏、小宮山洋子氏もそろって落選するという結果になりました。

一方、野党であった自民党から小選挙区18名、比例4名の計22名が立候補し、小選挙区で17名が当選又は比例復活当選を果たし、比例でも4名が当選しました。その他、みんなの党からは小選挙区から5名が立候補し1名が小選挙区で、2名が比例復活当選、日本維新の会からは小選挙区12名、比例代表1名の計13名が立候補し、小選挙区で3名、比例復活で4名、比例代表で1名の計8名が当選、日本未来の党からは小選挙区から6名が立候補したものの1名が比例復活当選、公明党からは比例代表として3名が立候補し全員が当選、幸福実現党は比例から1名が立候補したが落選しました。

今回当選した医師は、自民党からは鴨下一郎元環境相、富岡勉氏を始め、愛知県第14選挙区から立候補した今枝宗一郎氏ら8名、日本維新の会からは伊東信久氏ら4名、みんなの党からは2名、日本未来の党からは1名の合計15名が当選又は再選されました。

## ※重要なお知らせ

## 次期参議院選挙の組織内候補に<sup>はにゅうだたかし</sup>羽生田俊 副委員長を決定



羽生田たかし 副委員長

日本医師連盟は平成25年1月15日、常任執行委員会、執行委員会を開催し、今夏の参議院議員通常選挙の比例代表候補として、日本医師連盟副委員長羽生田俊氏（64歳）を自民党から擁立することに決定しました。今回は候補者を1本化して選挙戦に臨むことになりました。

横倉委員長は会見で「一本化できる候補者として羽生田氏を選んだ。羽生田氏は2000年から日医の役員を務め、日医の政策に精通しており、十分に力を発揮できる」と期待を述べられました。

羽生田先生も会見で「全国からの大きな支援を頂くことに全力を傾注したい」と述べられました。

### ◎ 自由民主党公認候補に決定

自由民主党は平成25年1月22日、日本医師連盟の羽生田俊副委員長を今夏に行われる参議院議員選挙比例代表の公認候補に決定しました。

### ◎ 羽生田先生のプロフィール

東京医科大卒。

昭和53年4月1日 羽生田眼科医院院長

昭和60年 医学博士学位取得

昭和62年11月1日（社）前橋市医師会理事

平成5年4月1日（社）群馬県医師会理事

平成12年4月1日 日本医師会常任理事（平成16年4月～18年3月を除く）

平成22年4月1日（社）日本医師会副会長

父親の故羽生田進氏は元衆議院議員

### ◎ 通称名の使用

立候補した際の候補者名は、<sup>はにゅうだ</sup>羽生田たかし と表記されます。